

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	東京工業高等専門学校
	大学等名1(代表大学等)※カナ	トウキョウコウギョウコウトウセンモンガッコウ
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	特別実習
	学部・研究科等名	専攻科全学科(機械情報システム工学専攻、電気電子工学専攻、物質工学専攻)
	担当教職員名・役職	教務主事補 綾野秀樹(電気工学科教授)、教務主事補 伊藤未希雄(物質工学科准教授)
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	26
	受入企業等数	37
	受入企業等名	株式会社エリオニクス ELIONIC INC.、ジャパンマリユニテッド株式会社、シチズンファインデバイス株式会社、株式会社橋本チエイン株式会社、株式会社テージーケー 有限会社、ベスト青梅ミヨシ油脂株式会社、武蔵野電子機器株式会社、一般財団法人日本品質保証機構、安全電磁センター、イー・アンド・エム株式会社、株式会社A・R・P国立研究開発法人産業技術総合研究所株式会社、FIXER株式会社、テクノメイトタキカワエンジニアリング株式会社、株式会社industria株式会社、昭和真空ホソカワミクロン株式会社、株式会社A・R・P株式会社、CAMI&Co.株式会社、日本テクシード株式会社、宇徳株式会社、放電精密加工研究所、大学共同利用機関法人自然科学研究機構、核融合化学研究所、富士電機株式会社、デノラ・ペルメレック株式会社、ナカシマベトナム株式会社、泰興物産株式会社、ホテル・ニコッ・ハノイ、メルボルン大学、メトロポリア応用科学大学、Vietsoftware International, JSC、LUVINA SOFTWARE JOINT STOCK COMPANY株式会社、豊田中央研究所、国立大学法人東京医科歯科大学、国立大学法人東京工業大学、国立大学法人物質・材料研究機構
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ、3.海外インターンシップ、4.他県をまたぐ広域インターンシップ、6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	ほとんどの受入先企業で実際の業務の就業体験を行う。また、大学でインターンシップを実施する場合は、専門的な研究を行うことができる。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	4.当該インターンシップは、必修科目として実施している、8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	専攻科1年生
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	専攻科1年生を対象に、夏季休業期間中1か月程度のインターンシップ(必修科目、2単位)を実施している。本科目では本科より長い実習期間を確保し、就業意識の形成、適職の確認、学校での学習意欲向上、専攻分野の知識向上等を目指す。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている、2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている、4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中に、教員が企業を訪問し、実習担当者および学生との面談を実施している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	本科4年生の時にマナー講習会を実施する。さらに、各専攻において事前にインターンシップの事前教育を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ終了時に企業内でのプレゼンテーションや報告会を行うことが多い。また、学内でインターンシップ報告会を実施し、専攻科担当の教員を含む数名の教員数名が評価する。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	専攻科担当が企業担当者と調整する。また、学生が所属する学科の教員が実習中に訪問をし、状況を確認する。さらに、実施後には企業から評価書をしていただいている。
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	

要素④	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。4.その他
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	研修内容をまとめ、インターンシップ発表会にて発表をしている。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ企業より、学校指定の評価書を記入していただき、その内容をもとに指導や評価を実施する。また、インターンシップ先の企業と専攻科の担当教員の指導の下で研修内容をまとめ、インターンシップ発表会にて発表する。その発表に対して、発表会に参加する教員および企業の方が質疑を行い、教員が評価する。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間1か月以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間1か月以上(うちインターンシップ実施期間20日程度以上)
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ実施後に、本校書式(または企業書式)の評価書を受入企業の実習担当者に作成いただき、学内での報告等とあわせて評価する。インターンシップ発表会には、企業の方にも案内を出し、可能な範囲で参加していただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://xythos.tokyo-ct.ac.jp/web/syllabus/2016/syllabus_homepage2016/index.htm
問い合わせ先	大学等名	東京工業高等専門学校
	担当部署名	学生課 教務係
	担当者役職名	
	担当者氏名	石川 裕季子
	電話番号	042-668-5419
	メールアドレス	kyoumu@tokyo-ct.ac.jp